

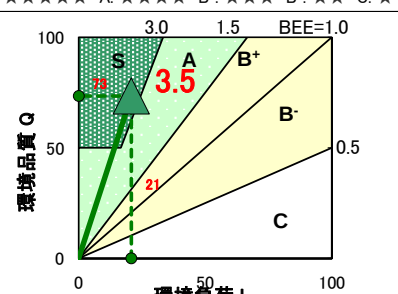
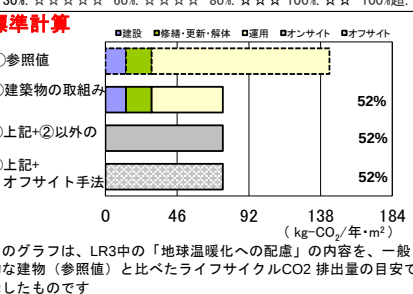
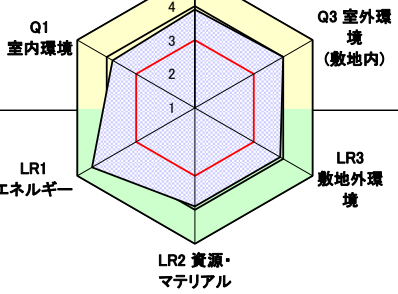
CASBEE® 名古屋

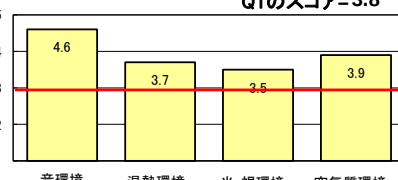
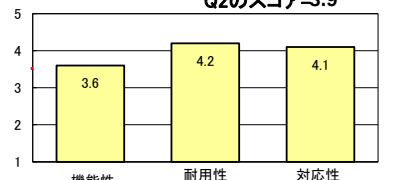
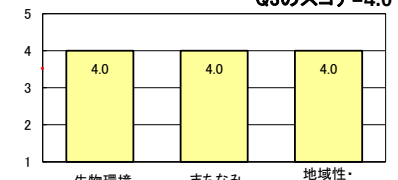
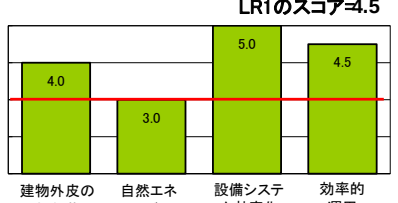
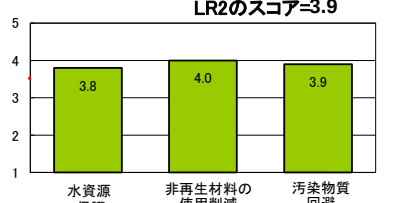
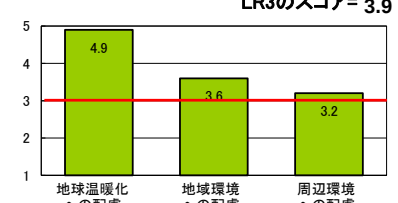
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋丸の内一丁目計画	階数	地上16F
建設地	愛知県名古屋市中区丸の内一丁目1613-1他10筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,845 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2024年3月19日
敷地面積	4,821 m ²	作成者	
建築面積	3,318 m ²	確認日	2024年3月19日
延床面積	47,963 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=3.5 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア= 3.9		
Q1 室内環境 Q1のスコア=3.8 	Q2 サービス性能 Q2のスコア=3.9 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア=4.0 
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 4.1		
LR1 エネルギー LR1のスコア=4.5 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア=3.9 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.9 

3 設計上の配慮事項		
総合 『快適性の向上と環境負荷低減を両立する環境配慮オフィスの実現』 外周部の柱梁を完全に外部化することで、日射負荷を低減するとともに、室内の快適性向上や、事務室空間の無柱化による利便性向上に寄与します。		
Q1 室内環境 Low-Eガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) ピロティを設けることにより空間提供による地域貢献に配慮し、屋上にテラスを設け豊かな中間領域の形成に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明設備を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋丸の内一丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。